様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１３１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０４１８

研究課題名（和文）当事者視点のQOL評価を導入したハイリスク妊婦の支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a support model for high-risk pregnant women based on their perceived quality of life

研究代表者
西方　真弓（Nishikata, Mayumi）

新潟大学・医歯学系・准教授

研究者番号：９０４０５０５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、当事者視点のQOL評価を導入したハイリスク妊婦の支援モデルの開発である。
助産師にハイリスク妊婦の入院生活におけるQOL構成要素を素材として提示し、従来行われているケアとの整合性、改善可能なケアについてオンライン上で半構成的面接を実施した。探索的内容分析を実施した。1）従来行われているハイリスク妊婦へのケアとの整合性ついては、より当事者の立場で行う必要性があがった。２）改善可能なケアとして面会場所・時間、方法を柔軟にし、家族の時間を持てるようにすること、妊婦の意向やニーズに焦点を置きながらケアを実践していく必要性があがった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
出生数が減少する中で、母体・胎児集中治療室に入院するようなハイリスク妊婦は増加している。緊急性が高く、急変時の対応が求められるハイリスク妊婦へのケアにおいて、医療者は症状や体調の管理に注目しがちである。本研究では、ハイリスク妊婦当事者のQOL構成要素を素材として従来行われているケアとの整合性、改善可能なケアについて検討を行った点に意義を有する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a support model based on the perceived quality of life (QOL) of high-risk pregnant women. High-risk pregnant women in the hospital were surveyed regarding their perceived QOL while in the hospital. The results were collated and presented to midwives in the form of semistructured for developing an improved support model while remaining compatible with conventional care. The data were subjected to exploratory content analysis. 1. In terms of compatibility with the current care provided to high-risk pregnant women: ensure a more patient-centered approach. 2.  The following two areas in which care could be potentially improved were identified:1) Flexible visiting times, locations, and methods should be provided for families, thereby allowing women to demonstrate their care for their families. 2) Health professionals should pay attention to patient preferences and needs regarding pregnancy.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：ハイリスク妊婦　個人的QOL　QOL評価

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

周産期医療，生殖医療の進歩によって，早産児や低出生体重児，何らかの異常が予想される児を出産するリスクのある妊婦および母体の異常等によって医学的管理が必要となる妊婦，いわゆるハイリスク妊婦は増加している。その対策として，総合周産期母子医療センターの整備が図られ，母体・胎児集中治療室（以下，MFICU）の病床数は 20 年前と比べると約 11 倍（715 床）に増床し，母体・胎児の健康状態を管理しながら妊娠継続が可能となってきている。

ハイリスク妊婦は妊娠継続や児の予後などに対し，不安や恐怖心を抱きながら入院生活を送っている。研究者らの先行研究で実施したハイリスク妊婦の当事者視点に基づく QOL 評価では，特に QOL 評価が低い妊婦の傾向として〈胎児の成長・健康〉が挙がっていないこと，〈家族との関係〉，〈会話・コミュニケーション〉の充足度が低いことが明らかとなった。これらの結果から，従来の医学的管理に重きを置いたハイリスク妊婦の支援モデルの枠組みのもとで実施されているケアと，ハイリスク妊婦が挙げる QOL 構成領域との間に乖離が生じている可能性（ケアの需用側と供給側の乖離）が示唆された。そこで我々は，従来のハイリスク妊婦の支援モデルの枠組みを当事者の QOL 評価の視点を取り入れて見直す必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究は，ケア提供者である助産師にケアの受け手側であるハイリスク妊婦の入院生活における QOL 構成要素を素材として提示し，従来行われているケアとの整合性，改善可能なケアについて語ってもらい，今後の臨床における実践的なケア応用に向けた示唆を得ることと，支援モデルの開発を目的とした。

３．研究の方法

ケア提供者である助産師にケアの受け手側である妊婦の入院生活における QOL 構成要素[1)]を素材として提示し，従来行われているケアとの整合性，改善可能なケアについてオンライン上で半構成的面接を実施した。（当初面接は，対面によるフォーカスグループインタビューにて実施する予定であったが，COVID-19 の影響もありオンラインの個別面接に変更）

面接は，本題に繋げるための導入としてハイリスク妊婦をケアする上での現状の課題について語ってもらい，その後，当事者視点の QOL 構成要素を提示し，ハイリスク妊婦に対し必要なケアや関わり方について自由に語ってもらった。面接時の語りを逐語録にし，研究目的に沿ってコード化し，類似性や共通性，相違性をもとにカテゴリ化し，探索的内容分析を用いて分析した。

４．研究成果

研究参加の同意が得られた助産師は 5 名，助産師経験年数は，5～7 年であった。

（１）従来行われている MFICU に入院しているハイリスク妊婦へのケアと妊婦が挙げる QOL 構成領域との整合性について

従来ハイリスク妊婦に対し実施されているケアにおいて，より当事者の立場で行うケアの必要性として以下の 3 つが抽出された。

①　〈母児の健康状態に関する情報提供や説明を行う〉

妊婦は自身やお腹の中にいる我が子に「何が起こっているのか」「これからどうなるのか」状況把握できずに不安になっている。医療者は，妊婦が出している不安のサインを読み取って関わってはいるものの，より当事者の視点に立って，現在の様子や今後の見通しなどについて情報提供や説明を丁寧に行っていくことが求められる。

②　〈気分転換や不安を和らげるために意識的に声をかける〉

ケアの合間や夜間帯などに意図的に，不安なことやニーズを引き出すよう関わっていくこと，世間話などを入れながら意識的にコミュニケーションをとるケアが実施されていた。

③　〈希望に沿った食事変更を細目に行う〉

長期の入院生活を送る妊婦に対し，食事摂取量の確認や本人の希望を聴く等しながら，選択肢を伝え，本人の嗜好に合わせた内容に変更するなどして対応を図っていた。

（２）改善可能なケアとしては，以下の 2 つがあがった。

①　妊婦にとって重要な QOL の構成要素である家族に関連したケアとしては〈面会場所・時間，方法を柔軟にし，家族の時間を持てるようにする〉ことで妊婦の家族への思いに配慮したケアが可能になる。加えて，入院中および今後の家族間の調整につながるという意見があがった。

②　医療者は症状や体調の管理に注目しがちで妊婦が〈大事にしていることや入院生活・出産・育児に向けた要望を引き出す〉ことに意識が向かず，妊婦の意向やニーズに焦点を置きなが

らケアを実践していく必要性があがった。妊婦が何を大事にして生活を送っているのか、何を求めているのかを把握し、入院によって変化が生じてしまうものもあるが、今までの生活と変えずに行えるもの、病院という場でどのような方法なら望んでいることができるのかを対象者と共に考えていくことが必要である。

以上の結果から，緊急性が高く，急変時の対応が求められるハイリスク妊婦へのケアにおいても，助産師は女性と胎児の健康ニーズ，妊婦の希望を尊重し，十分な情報提供と説明に焦点を当てたケアの概念である Women-Centered Care[2] のアプローチを理解し，ハイリスク妊婦に関わることが重要であることが示唆された。

〈引用文献〉
1）Mayumi Nishikata, Mio Tanaka, Michio Miyasaka:
Measuring individual quality of life in Japanese women with high-risk pregnancies:
clues for improving care plans and the hospital environment
Eubios Journal of Asian and International Bioethics.2019, Vol. 29 (2): 71-78
2）Kathleen Fahy：What is woman-centred care and why does it matter? Women and Birth 25(4):149-51

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>有森直子、西方真弓 | ４．巻<br>13 |
| ２．論文標題<br>意思決定支援で大切なこと・決められない事情 | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>臨床助産ケア | ６．最初と最後の頁<br>54-57 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Mayumi Nishikata,Mio Tanaka,Michio Miyasaka | ４．巻<br>29 |
| ２．論文標題<br>Measuring Individual Quality of Life in Japanese Women with High-Risk Pregnancies: Clues for Improving Care Plans and the Hospital Environment | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>Eubios Journal of Asian and International Bioethics | ６．最初と最後の頁<br>67-74 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>西方真弓、有森直子、宮坂道夫 |
| ２．発表標題<br>妊婦視点のQOLが助産師のケア実践に示唆するもの |
| ３．学会等名<br>第42回日本看護科学学会学術集会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 宮坂　道夫<br>(Miyasaka Michio)<br>(30282619) | 新潟大学・医歯学系・教授<br>(13101) | |

６．研究組織（つづき）

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 定方　美恵子<br>(Sadakata Mieko)<br>(00179532) | 新潟大学・医歯学系・教授<br>(13101) | |
| 研究分担者 | 有森　直子<br>(Arimori Naoko)<br>(90218975) | 新潟大学・医歯学系・教授<br>(13101) | |
| 研究分担者 | 高桑　好一<br>(Takakuwa Koichi)<br>(80187939) | 新潟大学・医歯学総合病院・教授<br>(13101) | |
| 研究分担者 | 小林　恵子<br>(Kobayashi Keiko)<br>(50300091) | 新潟大学・医歯学系・教授<br>(13101) | |
| 研究分担者 | 田中　美央<br>(Tanaka Mio)<br>(00405052) | 新潟大学・医歯学系・准教授<br>(13101) | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|